

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 11 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24320138

研究課題名(和文)「アラブの春」の社会史的研究 エジプト「1月25日革命」を中心に

研究課題名(英文) A Socio-historical Study of the Arab Spring -Focusing Primarily on the Egyptian Revolution of January 25, 2011-

研究代表者

大稔 哲也 (Tetsuya, Ohtoshi)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：10261687

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,600,000円

研究成果の概要(和文)：本科研では、「アラブの春」について、エジプト1月25日革命を中心として、その実態と性格、背景、歴史的意義について、詳細な共同研究を行った。その際に、エジプトの過去の革命や他のアラブ諸国・中東諸国の事例、南米やフランスの事例などとの比較検討も遂行し、歴史学・人類学・社会学など複数の方法論を併用することによって、多面的な考察を深めるよう心掛けた。また、エジプトやチュニジアをはじめとする現地の研究者との連携を密にすると共に、国内の若手研究者を中心に糾合した研究会を連続して開催し、本テーマに関する研究者のネットワーク構築を進めた。そして、これらによって、本研究テーマに関する研究書の刊行を準備した。

研究成果の概要(英文)： Our research group explored at length the conditions, characteristics, backdrop, and historical significance of the Arab Spring, with emphasis on the Egyptian Revolution of January 25, 2011. To implement multifaceted comparative analyses on this subject, we referred to past Egyptian revolutions, as well as to historical incidents that happened in other regions of the world, such as the Middle East outside Egypt, South America, and France, by employing an interdisciplinary approach, which utilized the disciplines of History, Anthropology, and Sociology. We also strengthened scholarly ties with researchers in the Middle East and organized a series of research meetings, which were attended mostly by young Japanese scholars. These meetings enabled us to create a new, wider academic research network, and also to prepare the collective publication of a book on this subject.

研究分野：中東社会史

キーワード：エジプト1月25日革命 アラブの春 中東 アラブ イスラーム

1. 研究開始当初の背景

2011年に中東で生じた一連の政治的激動は、一般に「アラブの春」と総称され、「エジプト1月25日革命」もその中の重要事件と位置づけられてきた。しかし、本共同研究を申請した時点で、その実態解明はまだほとんど始まっておらず、とりわけ日本においては革命の核心部分が不明なまま、外側から輪郭ばかりをなぞる状況が続いていた。そのため、本共同研究では現地経験の豊富な若手研究者を中心に、革命の本格的な実態解明に取り組むべく企画された。

また、本科研の研究テーマに関連して言えば、現地研究者と日本の研究者の間は乖離しがちであり、その連携をもとに新たな研究協力の形を模索することによって、状況の打開が求められていた。とりわけ、エジプト1月25日革命を記録する現地の各種プロジェクトとの交流が必要と痛感された。

さらに、この革命研究に関しては、日本の若手研究者に十分な研究発表の場が与えられていないと思われた上、このテーマに関連する彼らとの間の研究ネットワーク構築も不十分であった。しかも「アラブの春」に関しては、従前から中東の地域研究をリードしてきた分析手法が、あまり有効ではなかったと言わざるを得ない。そこで、今回はこの激動の発生以前から、背景となる事象のヴィヴィッドな研究を継続してきた人類学、歴史学、社会学、宗教学などのディシプリンに従事する研究者を中心にメンバーを組織した。

なお、報告者は本研究課題の申請に先立ち、2011年9月に広島と東京で革命後のエジプトと震災後の日本の状況を比較する国際シンポジウムを主催し(グローバルCOEプログラム「死生学の展開と組織化」による)、革命の記録に携わるエジプト人研究者たちとの研究交流をいち早くスタートさせていた。

2. 研究の目的

エジプト1月25日革命や「アラブの春」について、歴史的な視座を生かしつつ、実態を多角的かつ総合的に解明することを目的とした。より具体的には、次の通りである。

第一に、本研究テーマに関連した事実の確定作業は、依然として不十分な状態にある。それゆえ、この革命を歴史的な大事件として位置づけ、事実の精査と見極めを行うことが必要とされよう。そのためには、単にインターネット情報や日本で入手可能な文献に頼り切るのではなく、現地での丁寧な聞き取り調査や地道な現場踏査などのフィールドワークも重視される。また、現地でしかアクセスできない関連資料も閲覧・蒐集する。その上で、現地研究者との情報交換も不可欠となる。

第二に、本研究テーマに対して、広義の「社会史研究」がこれまで蓄積してきた研究の方法や成果を参照し、その適用について検討したのち、比較研究を行う。その際の参照枠と

しては、チュニジア、モロッコ、シリアなど他のアラブ諸国や、イスラーム革命を経験したイランなど中東諸国の事例に止まらず、ラテン・アメリカやフランスなどの事例も視野に収めて検討することにした。また、その際には、歴史学だけではなく、隣接する関連諸学、とりわけ文化人類学、社会学、宗教学などの方法と成果を援用して、より総合的な分析を心掛ける。

第三に、本研究テーマに関連して、現地研究者との研究交流を進める。とりわけ、革命に参画した経験を有し、革命を記録するプロジェクトを担った研究者との情報交換に努める。また、その一部は日本へ招聘し、日本で研究会を開催する。

第四に、本研究テーマに強い関心を寄せるものの、十分な研究発表機会を与えられていない若手研究者を糾合して、国内研究会を開催する。

第五に、これらの結果をもとに各自が学会発表などを行い、さらに成果を総合して合同報告書を作成したのち、書籍として公刊するよう努める。

3. 研究の方法

革命前の中東社会に水面下で広がっていた変革への渴望に対して疎かった学問領域ではなく、現地社会の変化に寄り添ってきた感の強いディシプリンを専門とする研究者を中心に、研究グループを構成した。

(1) 研究対象に対しては、中東内の特定地域へと収斂させたミクロな視点を活かすと同時に、グローバルに俯瞰する視座を併せて用いるように努めた。エジプトの革命についても、カイロのタハリール広場だけでなく、エジプト国内の複数の都市で同時並行的に進められた革命の在り方を、各都市に固有な経緯と共に理解すべく努めた。

(2) 歴史学のみに限定せず、隣接する文化人類学、社会学、宗教学などの方法論と成果を活用し、マルチディシプリンで研究を遂行した。

(3) 地域間・時代間の比較を重視した。直接に研究会で扱ったものだけでも、過去のエジプトにおける諸革命、チュニジア、モロッコ、シリア、イラン、南米、フランスなどの事例がその参照枠として設定された。この点については、それらの事例間に類似点を探るといよりも、むしろ、いかなる研究視角があり得るのか、いかなるアプローチが可能なのかなどについて、ヒントを得て触発されるところに意義を見出せるように思われる。

(4) フィールドワークも重視し、そのためのメンバー構成となった。本研究プロジェクトの参加者は、エジプト、チュニジア、モロッコ、イラン、フランスなどで現地調査に従事したが、貴重な証言を聞き取ったり、歴史的な意義を有するであろう資料を蒐集するなどした。

(5) 現地で関連の研究者たちと緊密な研究

交流を進めると共に、関係者の招聘を行ない、日本で複数の講演会を開催した。また、革命後の政府に閣僚として参加した経験を持つエマード・アブー・ガズィー教授(カイロ大学)には、本研究の現地側のカウンターパートになっていただいた。

(6)約3年間の研究期間中に、若手研究者を中心とする研究会を計13回開催した。これによって自由闊達な意見交換と問題の深耕が可能となった。

4. 研究成果

(1)エジプト1月25日革命や「アラブの春」の実態について、詳細に解明すべく努めた。その際に、現地の関係者に対する聞き取り調査や情報交換を実施し、また現地で公開された膨大な数の関連書籍や研究論文、関連する映画・小説・絵画・詩・音楽・シュプレヒコールなどもできるだけ用いて総合的に分析し、革命の実相に迫ろうとした。その結果、革命の主体の形成とあり方、革命の特徴や歴史的意義などについて詳らかにした。

(2)中東における社会変動に対する新たな研究手法について検討した。その際には、歴史学に止まらず、人類学や社会学、宗教学などの視点も含めながら、マルチディシプリンで臨んだ。同時に、比較の視座も重視した。そこには地域間比較と時代間比較、すなわち共時的・通時的な研究が含まれうる。比較対象の地域としては、チュニジア・シリア・モロッコ・イラン・中南米・フランスなどが挙げられるが、エジプトの1919年革命や1952年革命なども議論の俎上に載せられた。特に、フランス革命の社会史研究の諸成果からは、研究の着眼点や方法論などの点で、学ぶべきところが多かった。

地域間比較では、とりわけ革命後の展開がエジプトより先行しているチュニジアの事例を重視し、チュニジア・ジャスミン革命に参加したチュニジア人研究者ムニラ・シャプトー・ルマディー氏(チュニス大学名誉教授・歴史学)と共同で研究会を行うと共に、ハサン・エンナビー教授(チュニス大学教授・社会学)らとも意見交換を行った。

加えて、中東の革命研究に関連する限り、比較的目的新しい研究テーマにもチャレンジした。とりわけ、先述のようにシュプレヒコール、壁絵、音楽、映画、詩などの素材にも注目し、女性やジェンダーに関わる問題群も対象とした。また、この激動期におけるメディアの在り方と役割についても着目した。

(3)これらの研究活動の過程で浮上してきた重要課題として、エジプト2011年革命と「アラブの春」の時期区分がある。これは、少なくとも日本においてこれまで本科研以外には本格的検討がなされた形跡がなく、現地や欧米においてもようやく検討が緒についたところである。その結果、「アラブの春」の区分や、エジプト革命の時期区分についての仮説を提示するに至った。すなわち「アラブ

の春」に対しては、非暴力を掲げて自国市民のデモによって独裁政権を倒したチュニジア・エジプトの事例と、外国勢力が介入して暴力の応酬と化したその後のイエメン・シリア・リビアなどの事例とを区別する試みである。また、エジプト1月25日革命については、革命の単位を2011年の1月25日から2月11日のムバーラク大統領辞任まで、あるいはその後しばらく暫くまでを単位とするもの、公正な選挙によって、ムスリム同胞団から出たムルシー大統領が誕生するまでとするもの、2013年6月末~7月初頭にかけての政権交代までとするもの、の3説に大別して考察した。

(4)現地研究者との研究交流や現地調査も重視した。そして、エジプトにおける革命記録プロジェクトの責任者を日本に招聘したり、こちらから現地を訪問して交流するなどして情報を収集した結果、現地における革命記録・記憶プロジェクトは、アレクサンドリア図書館によるもの以外、すべて頓挫してしまっただことが判明した。特に、エジプト国立文書館の革命記録・記憶プロジェクト責任者であったハーレド・ファフミー教授(カイロ・アメリカン大学)を日本へ招聘して、複数の講演会を行った。その結果、プロジェクト頓挫に至るプロセスや頓挫の事由について詳細な証言を聞くことができた。エジプトにおいて唯一、プロジェクトが一応の完成を見たアレクサンドリア図書館の事例については、事業責任者であったハーレド・アザブ氏から、2012-15年の間に継続して聞き取りした。

さらに、現地の広範な社会階層にわたって、聞き取り調査を実施した。その結果、貴重な歴史的証言を収録することも可能となった。とりわけ重要な人物としては、革命後、エジプト史上初の女性大統領候補となったブサイナ・カーメル氏や、革命の実現にあたっての最重要人物の一人であるアフマド・マーヘル氏(「四月六日運動」グループ創設者)などが挙げられる。また、本科研のエジプト側カウンターパートを務めたエマード・アブー・ガズィー教授は、革命後に文化大臣を務め、新憲法案の作成にも加わり、会場で草案を読み上げた人物であった。彼からも直接にアドバイスを継続して得ることができた。

加えて、タハリール広場に革命初日から陣取り、革命を題材とする映画『敷物と掛布』を撮ったエジプト人映画監督アフマド・アブドゥラー氏とも、その革命観や作品内容を含めて、詳細な意見交換を行うことができた。同時に、各地の庶民街に暮らす一般市民からも多くの証言を集めた。このことは、革命時の自警団や創発的コミュニティーの発現に関する研究にも資するものである。なお、チュニジアの研究者との交流も重視して、研究会・講演会を主催したのは先述の通りである。

(5)若手研究者を中心として、一連の研究会を開催し、忌憚ない意見交換を行った。彼らは全員が研究分担者であったのではない

が、研究協力者として現地調査や、研究発表、報告書執筆を行った。また、この会合を通じて、本科研の研究テーマについての若手研究者の研究ネットワークの構築を行った。現在、それは様々な形を変えながら、機能しつつある。さらに、本科研に加わった文化人類学者、内藤順子、植村清加の両氏からは、専門とするラテン・アメリカ、フランス研究の見地から、研究上のアドバイスを得た。

(6)そして、4年度目へ印刷費のみを繰越し、研究分担者や研究協力者らによる論集である報告書をまとめ、冊子として印刷した。寄稿者は、研究代表と研究分担者以外に、竹村和朗、鷹木恵子、鳥山純子、安田慎、千葉悠志、後藤絵美、嶺崎寛子、萩原優の諸氏の計13名である。現在、これをもとに書籍として公開すべく、出版社と交渉中である。

以上のように、約3年間の共同研究の結果として、現地では停滞気味な革命研究を、日本において独自の形で展開できたと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計19件)

大稔哲也「エジプトを生きるイスラーム教徒とキリスト教徒-2011年エジプト「1月25日革命」までの歩み」『藤女子大学キリスト教文化研究所紀要』、査読無、13、2012、1-38頁。

大稔哲也「アラブの風-「エジプト1月25日革命」研究の「遠近法」と「複奏化」」『史学雑誌』、査読無、121-9、2012、33-35頁。

大稔哲也「グローバリゼーションの中のムスリム社会-エジプト1月25日革命とイスラームの在り方についての覚書」『多元文化』、査読無、4、2015、17-26頁。

岩崎えり奈「チュニジアの2011年11月制憲議会選挙と中央-地方関係」『中東研究』、査読無、515、2012、45-55頁。

岩崎えり奈、加藤博・臼杵悠「空間編成からみたアンマン都市社会-2008年アンマン世帯調査報告」*Global COE Hi-Stat Discussion Paper Series*, Hitotsubashi University、査読無、272、2012、1-23頁。

岩崎えり奈、"Temporary Migration from Ghomrassen, Southern Tunisia", 『上智アジア学』、査読無、30、2012、105-124頁。

岩崎えり奈「エジプトの革命と貧困-モラル・エコノミーの観点から」『神奈川大学評論』、査読無、76、2013、64-74頁。

Erina Iwasaki, H. El-Laithy, "Estimation of Poverty in Greater Cairo: Case Study of Three 'Unplanned' Areas", *African Development Review*, 査読有、25、2013、173-188.

Erina Iwasaki, H.Kato, H.Tsumura, "GIS as a Tool for Researching the

Socioeconomic History of Modern Egypt", *Journal of Asian Network for GIS-based Historical Studies*, 査読有、1、2013、22-32.

岩崎えり奈、加藤博「エジプト革命のディレンマ」、『世界』、査読無、855、2014、232-241頁。

岩崎えり奈、加藤博「グローバル化とエジプト革命」、『社会学評論』、査読有、65-2、2014、255-269頁。

Erina Iwasaki, "Income Distribution in Rural Egypt - A Three Village Case", *Journal of African Studies and Development*, 査読有、7-1、2015、15-30.

Erina Iwasaki, H. Kato, "Réseaux locaux en Egypte: Rôle des associations villageoises au Caire", *Mediterranean World*, 査読無、22、2015、1-16.

Erina Iwasaki, H. Kato, "Personality" of Economic Development in the Delta region of Egypt in modern times: Focus on Bahaira governorate", *Journal of Asian Network for GIS-based Studies (JANGIS)*, 査読有、3、2016、31-37.

岩崎えり奈「チュニジアの2014年選挙と地域」、『中東研究』、査読無、524、2016、76-95頁。

Tsuyoshi Saito, "Reflections on Political Change in North Africa and Its Influence on the European Union", 『神戸大学大学院国際文化学研究所異文化研究交流センター2012年度研究報告書 EUの内と外における共生の模索』、査読無、2013、81-91頁。

齋藤剛「個への視座、個からの視座」、『民博通信』、査読無、152、2016、16-17頁。

内藤順子「貧困概念の悪循環について-チリにおける文化人類学的考察」『人文社会科学研究』、査読無、54号、2014、79-94頁。

内藤順子「「小さき人びと」たちのプロジェクト-さまざまな他者の価値観のあいだを生きること」『人文社会科学研究』、査読無、55、2015、217-233頁。

[学会発表](計30件)

大稔哲也「グローバリゼーションの中のムスリム社会-「アラブの春」とイスラーム主義」第4回多元文化学会大会、2014.6.7、早稲田大学戸山キャンパス。

大稔哲也「ことばから見たエジプトの社会と国家」『ことば村』研究会、2015.10.3、慶応大学三田キャンパス。

大稔哲也「エジプト映画『敷物と掛布』から見た革命と彷徨」東京大学東洋文化研究所「中東の社会変容と思想運動」研究会、2016.2.11、東京大学東洋文化研究所。

Erina Iwasaki, N. Mtimet, K. Kashiwagi, A. Bouzeida, M. Kerdaoui, "Comparative Study of Traditional and Modern Oasis in Southern Tunisia", Tunisia-Japan Symposium on Society, Science and

Technology (TJASST), 2012.11.17, ハマメット(チュニジア).

Erina Iwasaki, H. Kato, "Social Environment, Irrigation and Cultivation in Rashda Village", The 4th Egyptian Japanese Joint Symposiums on "Remote Sensing and Its Application: From Archaeology to Social Sciences", 2012.9.12, National Authority for Remote Sensing and Space Sciences, カイロ.

Erina Iwasaki, H. Kato, "GIS as a Tool of Linking Different Socioeconomic Spaces: Study of Urban-Rural Migration to Cairo", Second International Conference of Asian Network for GIS-based Historical Studies (ANGIS), 2013.12.9, 京都大学.

岩崎えり奈, "Viewing Cairo from Urban-Rural Relationship", イスラム地域研究早大拠点2014年度第1回「メガシティカイロ研究会」, 2015.1.17, 早稲田大学.

岩崎えり奈、加藤博、「社会階層の流動化とエジプト革命」, イスラム地域研究拠点・共通研究課題「中東政治・経済の構造変動とイスラーム・アラブの役割」2014年度第5回研究会、2015.2.15、早稲田大学.

Erina Iwasaki, "Revolution and Networks of Information in Egypt", 一橋大学地中海研究会国際ワークショップ, 2014.9.4, ムハンマド5世大学社会経済研究所、ラバト、モロッコ.

Erina Iwasaki, H. Kato, "Human Mobility and Multi-ethnic Coexistence in Middle Eastern Urban Societies", 3rd Meeting of the Project at JaCMES, 2015.2.13-2.14, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

岩崎えり奈「チュニジアについて」, 上智大学イスラーム研究センター (SIAS) 主催シンポジウム「アラブの春」から「イスラム国」へ-無秩序と混乱の広がる中東・北アフリカの現状」, 2015.12.5、上智大学.

Erina Iwasaki "Modern Cairo and Alexandria from the Demographic Viewpoint", Meeting of the Project at JaCMES "Human Mobility and Multi-ethnic Coexistence in Middle Eastern Urban Societies 2", 2016.2.17, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

Erina Iwasaki, H.Kato, "Alexandria in the Time of Constantine Cavafy (1863-1933)", International Workshop co-organized by the Mediterranean Studies Group (Hitotsubashi University, Tokyo) and University of Ionia, 2016.3.28, イオニア大学(ギリシャ).

池田美佐子「エジプトにおける民主主義の系譜と議会文書」, 東洋文庫2012年度春期東洋学講座「東洋文庫と本の世界」, 2012.6.29、(財)東洋文庫.

池田美佐子「立憲王制期の政治的社会的変

容と自由将校団」、NIHU プログラム・イスラーム地域研究京都大学拠点 (KIAS) 他合同シンポジウム「エジプト7月革命(1952年)をめぐって: 新たな変革期における『革命』再論」、2012.12.8、京都大学.

Misako Ikeda, "The Uneasy Road to Parliamentary Development in Egypt", チュニジア - 日本文化・科学・技術学術会議 (TJASST 2013), 2013.11.16, チュニジア・ハマメット.

Misako Ikeda, "Parliamentary Development in Egypt: Uneasy Experience", World Congress for Middle East Studies, 2014.8.19, Middle East Technical University, トルコ・アンカラ.

池田美佐子「エジプト立憲王制期の議会-民主主義制度としての議会の一考察」, シンポジウム「中東政治におけるリベラリズム再考」, 2015.2.20, 東京大学東洋文化研究所.

池田美佐子「エジプト公教育の苦悩-「植民地」支配から教育格差まで」, 日本教育学会第74回大会シンポジウム、2015.8.29、お茶の水女子大学.

池田美佐子「シリア問題を考える」, 名古屋カトリック教会「イスラームを理解しよう、中近東を理解しよう」, 2015.12.13、名古屋カトリック教会.

⑲ Tomoko Yamagishi, "Introductory note on the panel "Iranian Networking in Transition" ", Tenth Biennial Iranian Studies Conference, 2014.8.9, Montreal(Canada), Hilton Bonadventure Hotel.

⑳ Tsuyoshi Saito, "Reflections on Political Change in North Africa and Its Influence on the European Union" International Workshop on "European Identity in Political, Economic and Social Changes", 2013.2.6, Brussels: Vrije Universiteit Brussel.

㉑ 齋藤剛「ベルベル人とイスラーム-モロッコにおける「先住民」運動の展開とその宗教観」, 日本イスラーム協会公開講演会「マグレブ・アンダルの歴史と文化」, 2013.6.2、東京外国語大学.

㉒ Tsuyoshi Saito, "Migration and the Changing Meanings of Homeland among the Moroccan Berbers", 2015 International Workshop on Mobility, Migration, and Its Discontents, 2015.9.18, Napoli: Università degli Studi di Napoli "L' Orientale", Procida.

㉓ Tsuyoshi Saito, "The Madras Revival Movement and its Local Textual Production in Southwestern Morocco: an Alternative Trend to the Amazigh Movement", International Union of Anthropology and Ethnological Sciences Inter-congress, 2014.5.17, 千葉・幕張メッセ.

㉔ Tsuyoshi Saito, "Blurring Maraboutism:

Westermarck and a Perspective on Religiosity in Daily Lives”, RAI Research Seminar, 2015.3.25, The Royal Anthropological Institute, London.

⑳齋藤剛「個 世界論-問題提起」、国立民族学博物館共同研究「個 世界論-中東から広がる移動と遭遇のダイナミズム」、2015.10.17、国立民族学博物館。

㉑齋藤剛「問題提起-中東における「民衆文化」の編成と「民衆」概念の再検討」、人間文化研究機構研究プロジェクト「現代中東地域研究」国際シンポジウム「中東における「民衆文化」の編成と「民衆」概念の再検討」、2016.2.27、国立民族学博物館。

㉒内藤順子「スラム観光の実施をめぐる感情的葛藤-チリ・サンチャゴ市の実践から」、日本文化人類学会第47回研究大会、2013.6.9、慶應義塾大学三田キャンパス。

㉓内藤順子「チリ・メキシコ・スペインの近現代宗教制度について」、「宗教人類学の再創造」国立民族学博物館共同研究会、2014.3.2、国立民族学博物館。

〔図書〕(計9件)

大稔哲也(科学研究費研究報告書)『「アラブの春」の社会史的研究-エジプト1月25日革命を中心に』2016、212頁。

岩崎えり奈、アジア経済研究所、土屋一樹編『エジプト動乱』、2012、142頁(111-135頁を担当)。

岩崎えり奈、加藤博、東洋経済新報社、『現代アラブ社会-「アラブの春」とエジプト革命』、2013、303頁。

Erina Iwasaki, Kenichi Kashiwagi, *Sustainable North African Society: Exploring Seeds and Resources for Innovation NOVA, Reconsidering Traditional and Modern Oases - Productivity and Technical Efficiency of Date Palm Farmers in Nefzaoua (Southern Tunisia)*, 2015, 182頁(149~162頁担当)。

八尾師誠・池田美佐子・粕谷元、公益財団法人・東洋文庫、『全訳 イラン・エジプト・トルコ議会内規』、2014、411頁。

池田美佐子『変革期イスラーム社会の宗教と紛争』、明石書店、2016、410頁(314-336頁担当)。

植村清加『シングルの人類学2 シングルのつなぐ縁』椎野若菜編、人文書院、2014、280頁(157-178頁担当)。

植村清加『ヨーロッパ人類学の視座：ソーシャルなるものを問い直す』(森明子編)、世界思想社、2014、296頁(58-71頁担当)。

植村清加『変革期イスラーム社会の宗教と紛争』(塩尻和子編)、明石書店、2016、410頁(235-262頁担当)。

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大稔哲也(OHTOSHI TETSUYA)

早稲田大学文学学術院・教授

研究者番号：10261687

(2) 研究分担者

池田美佐子(IKEDA MISAKO)

名古屋商科大学コミュニケーション学部・教授

研究者番号：80321024

山岸智子(YAMAGISHI TOMOKO)

明治大学政経学部・教授

研究者番号：50272480

岩崎えり奈(IWASAKI ERINA)

上智大学外国語学部・教授

研究者番号：20436744

齋藤剛(SAITO TSUYOSHI)

神戸大学大学院国際文化学術研究科・准教授

研究者番号：90508912

植村清加(UEMURA SAYAKA)

東京国際大学商学部・講師

研究者番号：30551668

内藤順子(NAITO JUNKO)

早稲田大学理工学術院・准教授

研究者番号：50567295

(3) 連携研究者

()

研究者番号：